

# 第1学年社会科学学習指導案

日時 平成26年11月7日(木) 5校時

対象 1年1組 男19名, 女16名 計35名

指導者 小渡敏貴

## 1 単元名 第3章 中世の日本 1節 武士の台頭と鎌倉幕府

### 2 単元の目標

ア 鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動などを通して、武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接なかかわりがみられたことを理解させる。

イ 農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、禅宗の文化的な影響などを通して、武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させる。

- (1) 平安時代の社会から生まれた武士がしだいに力をつけ、鎌倉幕府が成立するに至る経緯を理解させる。
- (2) 守護・地頭の設置や承久の乱などを経て幕府の支配がしだいに全国に広まったことを理解させ、武家政権の特色を考えさせる。
- (3) 鎌倉時代の武士の生活や民衆の動きに関心を持たせ、その様子を資料からとらえさせる。
- (4) 鎌倉時代の文化と仏教に見られる新しい動きを理解させ、当時の社会との関連を考えさせる。

### 3 単元の評価規準

観点	B: おおむね満足できる
社会的事象への 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"><li>武士が台頭し武家政権が成立したことや鎌倉時代の武士や民衆の動きに対する関心を高め、意欲的に学習している。</li><li>鎌倉時代の新しい文化と仏教への関心を高め、現在との結び付きについて意欲的に学習している。</li></ul>
社会的な 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"><li>武士が台頭し武家政権が成立して、武士の支配がしだいに全国に広まり、武家社会が発展していったという時代の流れを、幕府と朝廷の関係、土地制度の変化などから多面的・多角的に考察している。</li><li>鎌倉時代に新しい文化と仏教が生まれたことを、武士や民衆の動きと関連させて多面的・多角的に考察している。</li></ul>
資料活用の技能	<ul style="list-style-type: none"><li>武士が台頭し武家政権が成立したことと、鎌倉時代の武士や民衆の動き、鎌倉文化に関する様々な資料を活用している。</li></ul>
社会的事象に ついての 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"><li>武士が台頭し武家政権が成立して、武士の支配がしだいに全国に広まり武家政権が発展していったことを理解している。</li><li>鎌倉時代の新しい文化や仏教の特色を理解している。</li></ul>

### 4 単元について

#### (1) 生徒について

総じて活発な授業態度であり、板書の記入や説明をしっかりと聞くなど、集中して授業に参加して

いる。本時の目標は資料からの読み取りと、鎌倉時代のくらしの発達とそれに伴う生活の向上について理解させることである。生徒が積極的に資料を読み取る意欲があるが、その読み取りから深く追究し問題解決に結びつけることが得意な生徒は少ない。そのため、解答を求めるだけでなく、互いの考えを交流し、お互いの考えの良さに気づく活動から自分の解釈を深めていくことができるということを感じさせたい。そして、資料の読み解きに自信が持てるように、分析するおもしろさに気付ける資料提示・資料内容にし、読み解く意欲を持たせたい。そうすることで、自分の意見に自信を持ち、他者を認めあう学習活動の場を増やし、歴史的分野への意欲と関心を深める授業にしていきたいと考える。

## (2) 教材について

本単元は、『中学校学習指導要領解説―社会編』の内容(3)ア「鎌倉時代の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動などを通して、武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接なかかわりがみられたことを理解させる。」イ「農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、禅宗の文化的な影響などを通して、武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させる。」こととなっている。

鎌倉時代は武士勢力が、それまでの貴族勢力に取ってかわる背景から、東国を中心に本格的な武士政権を樹立し、展開させていった過程を理解することをねらいとしている。この政権が、荘園・公領といういわば古代の国家機構を受け継いで成り立っていることに視点を当てつつ、一方では古代国家機構とは異なった、領地を媒介とした主従関係を通して成り立っている社会、前期封建社会であることに視点を当てたい。

本時で扱う内容は、武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させることがねらいであり、「諸産業の発達」「都市や農村における自治的な仕組みの成立」について、これらが当時の社会の大きな変化であることに着目させ、技術面の進歩によって農業や手工業が著しく発達したことや、それに伴って人々の技術が向上したこと、商品流通が発達したことに気づかせる単元である。

これらの内容を扱うなかで、新たに生まれた文化の特色に気づかせるとともに、現在に結び付くものがみられることに気付かせる。その際、代表的な事例を取り上げてその特色を考えさせ、知識や技能を活用することで、時代の特色のとらえ方などの追究の方法について理解が高まるような学習を進めていきたい単元である。

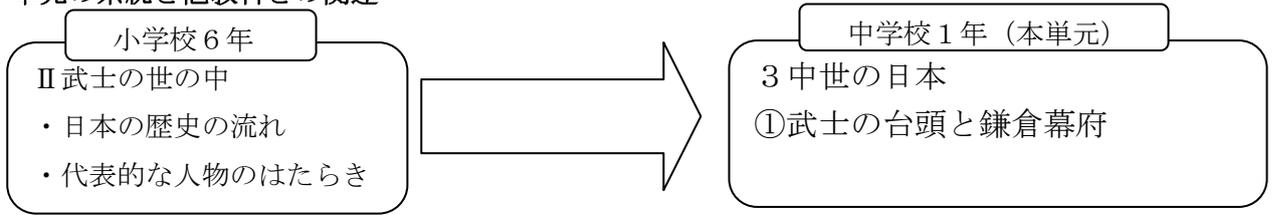
## (3) 指導について

歴史学習では、既習事項や生徒の発達に着目し、問題解決していくこと等が定着してきた。しかし、関心のある生徒と関心の薄い生徒の定着に差があり、自らの意見を導きだそうとする気持ちが少ない生徒がいるのも現状である。本単元では、過去の時代や現代とのつながりに視点を重ね合わせ、相違点に着目し生徒自身が主体的に理解できるように指導したい。

「場のつながり」として、平安時代や現在とのつながりや違いについての気付きを生かし追究できるようにさせたい。「教材のつながり」として、本単元は「歴史的分野」として(小学6年生Ⅱ武士の世の中)の延長線上にある。人物に視点をあてて時代を学んできていることに対し、時代の流れから出来事や人物、産業、文化を学ぶことに視点を変化させながら指導にあたりたい。「人のつながり」として、「自分の考えをもつ」場面として歴史資料から当時の状況を読み取る場面を、「互いの考えを交流する」場面として、読み取った意見をグループ協議する場面を、「互いの考えのよさに気付く」場面として、グループ内や他のグループからの発表を通して行わせたい。

そのために、視覚的に理解できる構造的な板書や課題解決のためのポイントとなる語句をはっきりさせて、自分の考えを持つところからつながりを深められるよう支援したい。

## 5 単元の系統と他教科との関連



## 6 単元の指導計画（4時間扱い）

- |                |          |
|----------------|----------|
| (1) 武士の成長      | 1 時間     |
| (2) 武家政権の成立    | 1 時間     |
| (3) 武士と民衆の生活   | 1 時間（本時） |
| (4) 鎌倉時代の文化と宗教 | 1 時間     |

## 7 本時について

### (1) 目標

- ① 絵巻物などの資料から、武士の生活の様子を読み取っている。〈技能〉  
 ② 鎌倉時代の農業技術や手工業・商業の発達とそれに伴う生活の向上について理解している。

〈知識・理解〉

- (2) 「自分の考えをもつ<sup>自</sup>」「互いの考えを交流する<sup>交</sup>」「お互いの考えのよさに気づく<sup>気</sup>」場面  
 「自分の考えをもつ」場面は、鎌倉時代の社会の変化を定期市の資料から考え予想する場面である。

「互いの考えを交流する」場面は、民衆の生活の進歩から民衆の生活は豊かになったのか考える場面と、意見をグループでまとめる場面である。

「互いの考えのよさに気付く」場面は、民衆の生活が豊かになったのか交流し自分以外の考えを知る場面と、人々の生活についてグループで協力してまとめる場面である。

### (3) 展開

段階	学習活動	場面	○指導上の留意点●評価の観点（方法）
導入 15分	1 定期市の様子から平安時代までとの違いを知る。 2 学習課題を設定する。 鎌倉時代の人々の生活は、本当に豊かになったのだろうか。		○ 定期市の様子を資料を提示し、鎌倉時代以前の民衆の生活との違いに着目させ、民衆の生活の進歩に気付かせる。 ○ 絵巻物の情報から、様々な商品が集まりや、貨幣経済の広がり、農業・商業・工業の進歩から自治意識が高まったことへの気付きにつなげる。 ○ 鎌倉時代以前と、鎌倉時代の生活の違いから、生活は豊かになったのか疑問を持たせ、課題を設定させる。
展開	3 予想する。 4 民衆について調べる。 ・ 民衆の生活の進歩から、民衆	<sup>自</sup> <sup>交</sup>	○ 農村のくらしの情報から、実際に豊かになっ

25分	<p>の生活は豊かになったのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地頭の支配により農民の生活が苦しかったことを知る。</li> </ul> <p>5 武士について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>武士の生活について考え、武士の生活や心構え、法律などを知る。</li> </ul> <p>6 グループでまとめる。</p>	<p>気</p> <p>交</p> <p>気</p>	<p>たのか、意見交流の場を持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農民の訴訟の資料から、くらしの進歩から豊かになる反面、支配する者がいたことに気付かせる。</li> <li>○ 下地中分の絵図などから地頭の成長や農民の抵抗について気付かせる。</li> <li>○ 定期市の絵巻物に描かれた鷹など、武士の生活についての情報を気付かせ、武士の内容につなげる。</li> <li>● 絵巻物などの資料から、武士の生活の様子を読み取っている。＜技能＞</li> <li>○ 本時での自分の考えや意見の交流から気付いたことをもとに、グループの意見をまとめる</li> </ul>
終末10分	<p>7 学習内容について個人でノートにまとめる。</p> <p>8 次時の内容を知る。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 鎌倉時代の農業技術や手工業・商業の発達とそれに伴う生活の向上について理解し、「二毛作などにより農業は発達し、手工業の発達により定期市が開かれ商人の活動がさかんになるなど、豊かな生活が広がった。しかし、荘園領主と地頭との支配に苦しむ民衆も多かった。」という内容をつかみ、まとめている。＜知識・理解＞</li> </ul>

(4) 板書計画

学習課題 鎌倉時代の人々の生活は本当に豊かになったのだろうか。

自分の考え 豊かになった 身分によって豊かさに違いがある

< 定期市 > 商人の活動さかんに

米、つば、魚、タカ、ゲタ、お面などの売買

→ 牛馬利用、収穫量の増加、鉄製農具普及、二毛作

・・・農民の技術向上、農業の発達

→ 鍛冶屋、紺屋・・・手工業者の技術向上

民衆の団結力の高まり、土地の所有権の強まり

↓

↓

豊かな生活になった

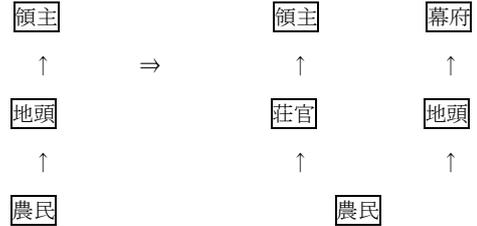
負担が大きい人もいた

生活の向上があった

つもの不満

まとめ

身分の違いによって違う



荘園領主・地頭の支配に苦しむ民衆も多かった

< 武士の生活 >

質素、身を守る作り、武芸の訓練「弓馬の道」「武士の道」

惣領が中心、分割相続

御成敗式目（貞永式目）

二毛作などにより農業は発達し、手工業の発達により定期市が開かれ商人の活動がさかになるなど、豊かな生活が広がった。しかし、荘園領主と地頭との支配に苦しむ民衆も多かった。